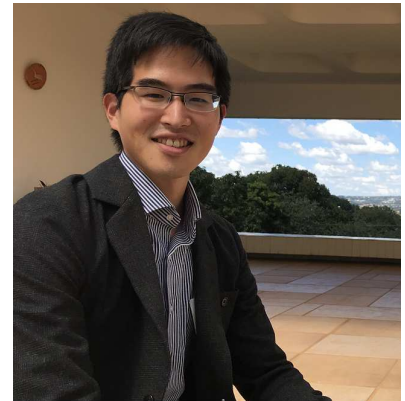


立高生活が今の仕事の基礎に

在アンゴラ日本国大使館
二等書記官

稲葉 大樹氏 (高校60期)



- 2008年3月 立高卒業
- 同年4月 東京外国語大学ポルトガル語学科入学
- 2013年3月 同卒業
- 同年4月 外務省入省
- 2016年6月 在ブラジル日本国大使館三等書記官
- 2018年8月 在アンゴラ日本国大使館二等書記官(現職)

はじめに

立高を卒業して11年が経ちましたが、現在はアフリカ南西部に位置するアンゴラ共和国にある日本国大使館に勤務しています。本稿執筆のお話を頂いた際、今の高校生の皆様は何をお伝えすればよいか非常に悩みましたが、自分の立高時代やこれまでの仕事や生活を振り返り、思うところを綴ります。

立高での行事は今の仕事に通じている

今思うと、立高時代の教室外での活動が少なからず現在仕事をこなすにあたっての基礎となっていると感じています。仕事柄、通訳を含め日本の皇族や政府要人を海外でアテンドしたり、外国要人の訪日に同行することが多いのですが、その中身は規模は違えど立高祭や演劇コンクールでやっていたことと同じです。行事の成功という共通の目標に向かって、必要なタスクを洗い出し、何をいつまでに処理すべきかスケジュールを立て、他の関係者と協力しつつ与えられた役割を全うする、予想しなかった問題が発生した時に所与の条件の中でいかに対処するか検討する等、立高での行事で経験したことそのものです。

Presidente considera apropriadas medidas de combate à corrupção

O Chefe de Estado, aplaudido no final da sua intervenção, garantiu aos representantes da TICAD que o Governo angolano está a reforçar medidas para combater o branqueamento de capitais e a corrupção, um dos maiores desafios da sociedade angolana.

ANGOLA

本年8月末に第7回アフリカ開発会議 (TICAD 7) が横浜で開催されましたが、私が在勤しているアンゴラ共和国から史上初めて大統領が出席しました。その際に私は日本政府を代表してアンゴラ大統領の全日程に同行しましたが、大統領の日本滞在の成功という一つの共通目標に向けて、アンゴラ共和国及び日本の政府関係者のみならず、宿舎のスタッフ、警察等のあらゆる関係者と協力して様々な課題やトラブルを乗り越え、何とか大統領の訪日を成功に導くことができました。大統領専用機の領空通過や離発着時間の調整が訪日直前まで長引き、冷や汗をかきながら夜遅くまでアンゴラ政府関係者と折衝したことは今となっては良い思い出です。

←【TICAD 7を報じた現地新聞 中央がアンゴラ大統領 左隣が筆者】

私の立高時代、教室の中では既定の解があり、そこに辿り着くためのプロセスを学んでいましたが、教室外の行事では、決まった解はなく、同級生と協力しながら自分たちの頭で考えて自分たちなりの方針を決めることが求められました。不測の問題や課題が浮上した際には、その都度所与のリソースの範囲内で最適解を見つけることを各行事の中で経験できました。教室外での活動に積極的に取り組んだことで、いつの間にか今の仕事の素地を作ることができたと強く思います。

恵まれた環境にいるからこそ多角的な視野を

自宅から勤務先までは自家用車で通っているのですが、毎日のように路上生活者、乳飲み子を抱えて果物を売る女性、信号待ちの車両に物乞いする子供等、日本では見ることのない光景を目の当たりにします。世界有数の経済大国で衣食住不自由なく生まれ育った私にとっては、大変心痛ましく思うと同時に自分は恵まれた環境にいるからこそ、精一杯目の前のことに取り組む道義的な責任を負っているとも感じています。色々悩みが付きにくい世の中ですが、今住んでいる自分の周りを見渡すと、自分は何と贅沢な悩みを抱えているのか思い知らされます。高校生活を送る皆様も大なり小なり悩みを抱えているかもしれませんが、世界に目を向ければ、違った考え方になるかもしれません。